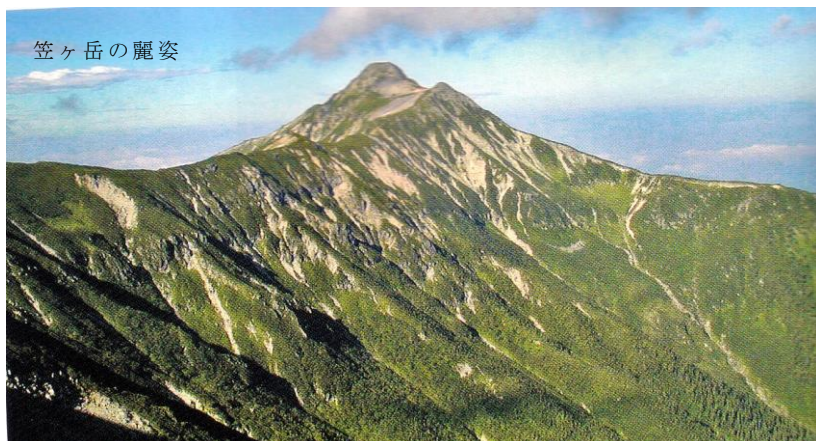


作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

笠ヶ岳・槍・穂高の展望台



笠ヶ岳の麗姿



抜戸岩と笠ヶ岳

7月下旬、北アルプス・笠ヶ岳（2898m）に出かけた。槍・穂高から西を見て、蒲田川を隔てて堂々とそびえるピラミッド型の独立峰が笠ヶ岳である。今回は笠新道を登り、クリヤ谷を下りにした。

夜行バスを利用して新穂高温泉に着いた。早朝なのに、ここからロープウエー利用で安直に西穂高に向かう大勢の客でもって混雑している。6時20分出発。左俣谷沿いの砂利道をテクテク歩く。7時半、ようやく笠新道入口到着。ここから樹林帯の中の岩ゴロゴロの急な登りが始まる。あえぎあえぎの登りであるが、時々小雨のパラつく曇り空で、日差しのないのが助かる。

11時半、樹林が終わり杓子平。チングルマ、ハクサンイチゲ、コバイケイソウなどの花々に迎えらる。ここから仰ぐ笠ヶ岳、槍・穂高の景観も素晴らしい。束の間の草原散歩を楽しんだ後は、再び岩屑斜面のジグザグ登りに大汗をかき13時半、やっと抜戸岳と笠ヶ岳の中間の主稜線に飛び出した。抜戸岩がすぐ目の前に見

える。後は、多少の起伏はあるが気楽な尾根道散歩。15時、今夜の宿の笠ヶ岳山荘到着。この時季、宿は満員の盛況である。例の如く、酒仲間が食堂に自然と集まり、山談義に花が咲いた。

翌朝は快晴。5時山荘出発。間もなく槍ヶ岳の肩に日が昇った。5時

20分笠ヶ岳山頂。見はるかす猛々しい槍・穂高のシルエットが圧巻である。ふと振り返ると、笠ヶ岳が西方に三角形の影を落として見えた。

下り。頂上のケルンの間を抜け、岩の堆積した尾根道を慎重に足場を確かめながら辿る。スゴい下りである。右下の錫杖岳がグングンせり上がってくる。

8時クリヤの頭。ここから稜線を離れ、谷の中に向かってのジグザグ下降が始まる。程なく樹林帯に入り、沢の中を右に左に渡り返して下る。頭上には錫杖岳の岩壁

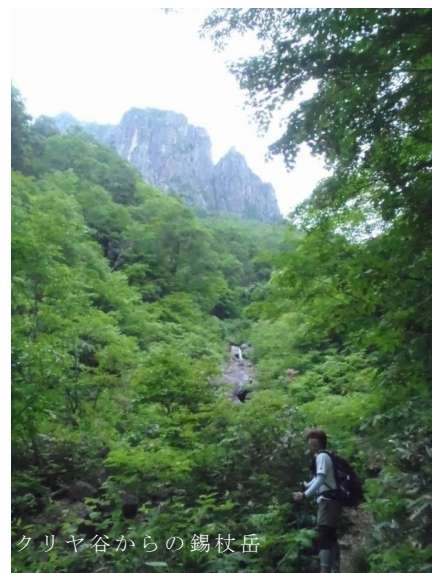
が覆い被さって見える。やっと14時、槍見温泉到着。待望の野天風呂に浸かりながら、改めて槍ヶ岳を仰いだ。



笠ヶ岳山荘



杓子平から望む槍・穂高



クリヤ谷からの錫杖岳